2023

公益社団法人 大分県薬剤師会

県薬会報（おおいた）

一般公開版

Journal of The Oita Pharmaceutical Association

Point of View [視 点]

天 職　　副会長 副 千秋

通号 209
NOVEMBER 11
vol. 57-5

視点

天　職

副会長　副　千秋

平素は大分県薬剤師会の運営にご協力を頂きありがとうございます。

大分県薬剤師会も1897年任意団体として設立されて126年。正式に現在の大分県薬剤師会となって59年。2012年公益社団法人となって11年が経ちました。そして、医薬分業は日本薬剤師会の指導の下、来年には50周年を迎えます。この医薬分業は長年の薬剤師の歴史の中で諸先輩方の努力が報われた結果ではありますが、努力された諸先輩方の多くはこの成果を味わうことなく現在に至っています。そして、50年を経た現在の状況は決して喜ばしい内容では無くなって来ているのではないでしょうか。

勿論、薬剤師の業務は調剤業務だけではありません。薬を扱うエキスパートとして医療の内外で活躍しています。しかし、この薬剤師職能が大きな危機に直面してきていると思います。この危機は内的要因と外的要因があり、この要因を今後クリアしていかなくては薬剤師職能の未来は先細りしていくしかありません。それは薬剤師だけでなく国民が誰でもいつでも良質な医療を受けられるという国民医療にとっても大きなマイナスになります。

まずは外的要因です。これは我々薬剤師の力では直接的には解決できないものです。

それは、少子高齢化、人手不足、地域間の医療格差です。この３つは関連していますし、医療だけでなく全ての業種に関連する大きな問題です。「令和４年度版　厚生労働白書」によると、少子化により2040年には医療・福祉分野だけでも就業者数が96万人の人手不足が見込まれると云われています。人手不足は直近でも起きており、業務の処理機能が遅れ、医療事故、調剤過誤やヒヤリハット事例も発生率が上がっています。我々の業務の根本を揺るがす問題です。

それから、医療制度の問題です。これも我々の力がなかなか及び難いところがあります。我々の業界は、医療制度に守られている面もありますが、制度に縛られてもいます。結果、調剤報酬の改定時には厳しい内容になって来ていますし、毎年の薬価改定は頭痛の種にしかなりません。それに加えて4,000品目もの供給不安になっていると云われる医薬品不足の問題も深刻です。製薬会社にとって医薬品の３割近くは赤字品目で、製造すればするほど赤字が増え生産には消極的であると云われています。結果的に医薬品の安定した製造、供給には３～５年掛かるというのが本音であると思われます。他にも外的要因として多くの問題を抱えていますが、経営的に大きな問題はインフレによる景気です。今までのデフレ脱却からのインフレは必要である一面、あらゆる物価が上昇している中で、薬価は下がり、調剤報酬の算定要件はかなりの努力が必要になり、収益が減少していく我々の業界は、経済が安定するまでは厳しい運営を強いられます。それでも業務に対応する人材確保と育成、それに対する人件費、設備投資

等々確保していかなくてはなりません。経済は我々にとっては不得手な分野であると思いますが、グローバルな視点からは我々の業界の存続にとって乗り越えていかなければならない重要な事であります。

次に内的要因であります。これは我々薬剤師自身が直面する業務の中で状況に応じて頑張っていかなくてはならない事です。今でも充分に頑張っていると思いますので、失礼かもしれませんが、頑張ると言っても要領よく頑張っていくという事です。要領がいいとは「物事の本質を正しく理解し、適切に行動でき、解決でき成長する」ことです。学校のテストでも短時間で正確に問題が解けていた人がいました。要領がよかったと思います。仕事の中での要領の良さは必要です。ただ、誤解を生む可能性がありますので詳しくは書くことを控えさせていただきますが、世の中の進歩・成長に沿って人間も企業も成長していくことが望ましいでしょう。「今まで出来なかった事が出来るようになった」これが成長した証です。要領よく振舞うことによって時間に余裕が生まれるようにすれば、自己研鑽する時間も出来、薬剤師として今まで以上に成長できると思いますし、成長していかなくてはなりません。企業とは世の中に役立つことをしながら、常に成長してゆく事が最大の使命であります。嘗て、元トヨタ自動車の張富士夫社長が「職場には、仕事と無駄しかない」と言われています。仕事も、無駄にも色々ありますが、考えさせられる言葉です。ぜひ考えて頂きたいです。考えることによって必ず内的要因も磨かれてきます。

現在は生成AIから汎用人工知能（AGI）なるものが脚光を浴びてきています。４年前にもレイ・カーツワイルが「人工知能が人間を超えるシンギュラリティ」と題して「2045年には人類全体の知的能力を１台のコンピューターが上回るだろう」と言っています。

また、2014年にはスティーヴン・ホーキング博士が「人工知能の発明は、人類史上最大の出来事であった。だが同時に最後の出来事になってしまう可能性もある」という言葉を残しています。

前述の外的・内的要因も国が進めている医療DXによって少しは改善されるでしょう。しかし、根本的な解決にはなりません。また、AGIの出現は最終的に我々の業務にとって「創造になるか破壊になるか」これからの行動次第です。

さて50年と言えば人間では50歳を「知命＝五十にして天命を知る」と云います。「自分がどういう素質能力を天から与えられているか、それを称して命という。それを知るのが「知命」である。知ってそれを発揮していくのが「立命」である」と云われます。分業も50年を迎えて医薬分業はというのは如何なる制度であるのかをよく再認識し、薬剤師職能を発揮して確立継続していかなければなりません。そして、全ての薬剤師が自ら選んだ職業を「天職」であると自覚できることが大事です。

時代の流れの中でAIは進化していくことは間違いありません。AIと共存して、何よりも人間の心で寄り添う医療従事者として天職を全うしていくことだと思います。

contents

視点

天　職　　副会長　副　　千秋

第82回九州山口薬学大会

参加報告　　若手薬剤師部会 委員長　仲矢侑希子

第56回日本薬剤師会学術大会

参加報告　　災害対策委員会 委員長　小路　晃平

シリーズ　薬薬連携

「うすき石仏ねっと」の活用について
～薬局の立場から～　　萬里薬局　神田秀一郎

地域・職域薬剤師会だより

大分市薬剤師会
「節薬バッグのリニューアル」について　　薬局委員会　野中　麻里
国東市薬剤師会
国東の魅力と国東市薬剤師会の活動　　会長　児玉　慎一
豊後大野市薬剤師会
ダメ。ゼッタイ。運動　　やの薬局　堀田　克行

委員会・部会報告

若手薬剤師部会
第13回職人フェスティバル 参加報告　　オリーブ薬局　河北竜太郎

検査センターだより
O・P・A薬局だより

第82回 九州山口薬学大会

参加報告

若手薬剤師部会 委員長　仲矢　侑希子
（佐伯調剤薬局）

九州山口薬学大会に参加しましたのでご報告いたします。

９月22日（金）

・九州山口若手薬剤師連絡協議会

昨年初めて参加した若手薬剤師連絡協議会は、緊張で各県の先生方の顔と名前を覚えることが精一杯でした。また各県での活動を聞きながら驚くことばかりでした。

今回で２回目。１年前見た方がたくさんいらっしゃり、ほっとした面もありました。

さて、今回の協議会では、事前に各県の問題点と現状を出していただき、その問題点に対して自県での取り組みを紹介し、今後どのように生かしていくべきかを検討しました。若手の薬剤師が定着しづらいこと、薬剤師会の活動に興味を持ってもらうにはどうしたらよいかなど、悩みは多いようです。大分県若手薬剤師部会においても、若手薬剤師の入会促進について今まで以上に考えていかなければならないと思いました。

９月23日（土・祝）～９月24日（日）

・特別講演「夢持ち続け日々精進」

ジャパネットたかたの髙田明さんが講演してくださいました。「何歳になっても夢を持ち続ける」ことで学び続ける活力が生まれる、過去にとらわれず未来を心配しすぎないように「情熱をもって今を生きる」ことが大切だとおっしゃっていました。そして、人生は「常にボトルネックを探す旅」だそうです。…薬剤師として患者様に向き合う中で、なぜ伝わらないのか？と思うことがたくさんあります。まだまだ考えなければいけないことが山積みです。大きな気付きを与えてくれた講演でした。

・薬物乱用防止教育に関わる学校薬剤師の活動

近年の大麻乱用の背景には、SNSによる誤情報発信や海外での合法化などがあり、多角的な対策が必要となっています。また、友達や家族といった周囲との関係性に悩む世代でもあるため、環境のストレスを解消する教育が必要となると改めて感じました。今回のシンポジウムでは、上記の内容に加え、学校薬剤師は「学校の職員」であることから教育スキルについても触れていました。子どもたちが識別しやすい文字の色や大きさ・フォントなどを教えていただきました。薬物乱用防止教室などでスライドを作成しますが、今まで意識したことが無かったです…。すぐ実践できる内容ばかりでとても勉強になりました。

私の勤務先である佐伯調剤薬局は、社員旅行として、学会に参加しました。薬剤師・事務共に薬局をより良いものにするための勉強です。講演を聴いたり、ポスターを見たりする中で感じるものがあったようです。

充実した３日間でした。長崎県薬剤師会の先生方、ありがとうございました。

大分
若手
小さな輪が少しずつ
まずは各地域、
いずれ県
Google
これからの
この九州山口薬学
これからもっとも
また、若い世代の
自薬他薬問

九州山口若手薬剤師
連絡協議会
Google Formsでのアンケートにご協力ください

九州山口薬学大会
2023 9.23 24
一般メッセ会場

シンポジウム

■シンポジウム２　災害医療における連携と活動

S2-3　（公社）大分県薬剤師会におけるモバイルファーマシーの運用

大分県薬剤師会 理事　伊藤　裕子

■シンポジウム10　薬物乱用防止教育に関わる学校薬剤師の活動

S10-2　多職種との協働による薬物乱用防止教室の実践

大分県薬剤師会 常務理事　佐藤　英隆

一般演題 / ポスター発表

■C　地域保健、チーム医療（薬薬連携・地域連携を含む）

P-C-01　大分市薬剤師会が大分市医師会と連携して対応した
新型コロナウイルス感染症への取り組み

大分市薬剤師会 会営東野台薬局　荻本　恭子

■D　医薬分業、かかりつけ薬剤師・薬局

P-D-01　「第二次生涯健康県おおいた21」における
（公社）大分県薬剤師会の事業所禁煙サポート活動報告

大分県薬剤師会　熊　佐代子

■E　地域連携薬局、専門医療機関連携薬局、健康サポート薬局、薬局機能

P-E-03　薬局店頭・在宅における心電図測定

しもかわ調剤薬局　下川　滉介

■I　医薬品管理、使用状況調査（薬剤疫学を含む）、臨床試験（治験を含む）

P-I-08　高齢者の孤独感とポリファーマシーの関連

（株）永冨調剤薬局　多田　貴彦

■L　災害医療、危機管理

P-L-02　（公社）大分県薬剤師会における会員施設のBCP活用状況

大分県薬剤師会　河村　聡志

■N　薬物療法（相互作用、有害事象、処方提案を含む）、プレアボイド

P-N-06　椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症による疼痛が漢方薬併用で著効した１症例

（株）下川薬局 東中の島調剤薬局　安部　憲廣

P-N-09　イサブコナゾールを投与中にほてりと肝障害を認めた
侵襲性肺アスペルギルス症の一症例

大分市医師会立アルメイダ病院　郡田　菜緒

P-N-12　慢性腎臓病におけるSGLT2阻害薬の短期的評価
ー尿アルブミン改善効果を中心にー

大分県済生会日田病院　近藤　和宏

■Q　感染対策、抗菌薬適性使用

P-Q-05　再発CDIに対しVCM散治療後に便培養からVREが検出された
びまん性大細胞型Ｂ細胞性リンパ腫の一症例

大分市医師会立アルメイダ病院　末延　道太

■U　学校薬剤師、学校環境衛生、薬物乱用防止、くすり教育、アンチドーピング

P-U-01　コロナ禍での手洗い指導の実施調査

大分市薬剤師会 学校保健委員会　藤原　絵美

第56回 日本薬剤師会学術大会

第56回

日本薬剤師会学術大会

The 56th JPA Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Science in WAKAYAMA

会期 2023年9月17日(日)～18日(月・祝)

会場 和歌山県民文化会館、和歌山城ホール、和歌山県立医科大学薬学部キャンパス、ダイワロイネットホテル和歌山、ホテルアバローム紀の国

主催 公益社団法人 日本薬剤師会／一般社団法人 和歌山県薬剤師会

事務局：一般社団法人 和歌山県薬剤師会 〒640-8249 和歌山市雑賀屋町19番地 TEL：073-422-4748／FAX：073-428-1143
運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ内　〒531-0072 大阪市北区豊崎3-19-3 PIAS TOWER 11F
TEL：06-6377-2188／FAX：06-6377-2075／E-mail：jpa56@c-linkage.co.jp

www.c-linkage.co.jp/jpa56/

参加報告

災害対策委員会 委員長　小路　晃平
（つきの薬局）

令和５年９月17日（日）から18日（月・祝）の２日間に、和歌山県で開催された第56回 日本薬剤師会学術大会に参加しましたので報告致します。県外の取り組みを学ぶべく、災害対策委員長として、災害に関するテーマを取り扱うプログラムを中心に口頭発表、シンポジウムや分科会の聴講、ポスターの閲覧をすることができました。

９月17日（日）の口頭発表１「災害対策・災害医療」では、「(公社）大分県薬剤師会における会員施設のBCP活用状況」について口頭発表を行いました（＊詳細は、河村先生の第82回九州山口薬学大会で発表されたポスターの報告書を参照ください)。質疑応答では、BCP（事業継続計画：Business Continuity Plan）に関して各地域でも普及に難渋しているという声がありました。BCPの作成について雛形を使う例、インターネットで企業が使用しているテンプレートを使用する例や見開き１ページでわかるようにBCPを作成した例の紹介もありました。大分県薬剤師会では、ホームページ上にBCPの雛形を掲載しておりますので、未作成・作成中の施設は、作成していただけると幸いです（大分県薬剤師会ホームページ＞会員専用ページにログイン＞災害対策委員会＞事業継続計画（BCP）の策定について＞薬局業務継続計画（震災編）薬局震災BCPをクリックしてダウンロードできます)。

またこの口頭発表１では、白戸 亜沙美先生の「大雨に係る災害（水害）被災地域での臨時的措置による調剤薬局の対応」が興味深い発表でした。内容は、大雨で街に１つしかないクリニックが浸水し、修繕を行わなければ医師が処方箋を交付できない状況での薬剤師の対応についてでした。被災後、薬局は早急に復旧することができ、厚生局に確認を取り、お薬手帳を参考にして調剤し、地域の患者さんへ医薬品の供給が安全に行えたという結果でした。このように、薬局が早急に復旧することで、薬局を安全に継続できるだけでなく、多くの地域住民を救うことができた事例だなと感じました。ただ、平時に戻る時期についての質問がありました。クリニックの復旧の目処がたっていないにも関わらず、新聞記事で薬局の取り組みが大きく報道された後に、厚生局から即日中止するよう指導が入ったとの回答があり、制度の難しさを考える一面もありました。

９月18日（月・祝）の分科会15「やがて来る南海トラフ巨大地震に備えて～薬剤師が果たすべき役割～」を聴講しました。まず、加藤正哉先生が発表された「津波災害時に見られる病状と、被災地で薬剤師に望まれる活動」では、災害関連死の問題や東日本大震災以降の災害対策では避難生活者への保健医療が新たな課題になっているということを話して下さいました。大規模災害時の保健医療福祉活動において、災害医療コーディネーターだけでなく、災害薬事コーディネーターの必要性について示しておら

れました。次に、渡邉 暁洋先生が発表された「災害時に薬剤師は地域の要になれるか？～薬剤師の可能性を考える～」では、災害時における薬剤師の役割として、平時からの業務を含めて考え、医薬品管理、調剤、服薬説明だけでなく救護所活動、避難所などの公衆衛生活動等、それぞれの地域での活動が必要であること。薬剤師が他の医療職と異なる点として、医薬品や衛生材料、栄養食品、介護用品などを取り扱っているところが重要であると示して下さいました。

南海トラフ巨大地震等の災害時の問題は、被災地に向かう薬剤師が考えれば良いというものではなく、我々の働く地が被災することを想定し、私たちが解決しなければならない問題であると、改めて考えることができました。

他分野においても、ポスター発表や口頭発表に参加し、積極的に質問をさせていただくことができました。そして、日々の業務を発表で形にすることが大切であると感じました。今後も大分県薬剤師会の取り組みを全国に発信していく必要があると思います。

次回の日本薬剤師会学術大会は、埼玉県さいたま市で令和６年９月22日・23日に開催される予定です。大分県薬剤師会から、多くの発表や参加があればと思います。

一般演題　口頭発表

■口頭発表1　災害対策・災害医療

O-01-2　（公社）大分県薬剤師会における会員施設のBCP活用状況

大分県薬剤師会　小路　晃平

■口頭発表7　学校薬剤師・服薬支援

O-07-4　発達障碍児への服薬支援に絵カードを用いて行った１症例

ワタナベ薬局上宮永店　松本　康弘

■口頭発表20　健康サポート薬局・栄養指導・禁煙支援・セルフメディケーション

O-20-2　「第二次生涯健康県おおいた21」における
（公社）大分県薬剤師会の事業所禁煙サポート活動報告

大分県薬剤師会　熊　佐代子

■口頭発表21　感染対策・地域医療（１）

O-21-1　大分市薬剤師会が大分市医師会と連携して対応した
新型コロナウイルス感染症への取り組み

大分市薬剤師会 会営東野台薬局　荻本　恭子

■口頭発表23　学校薬剤師・感染対策

O-23-3　コロナ禍での手洗い指導の実施調査

大分市薬剤師会/医療法人社団親和会えとう内科病院　藤原　絵美

一般演題　ポスター発表

■ポスター発表　薬局製剤、調剤技術、無菌調剤

P-049　ビタミンB1を再考する～食事摂取基準および添付文書改訂となった事例から～

大分県勤労者医療生活協同組合 大分協和病院　野田　武

■ポスター発表　副作用、相互作用、イベントモニタリング

P-246　オランザピン単回投与後に発症した糖尿病性ケトアシドーシスの１例

大分大学医学部附属病院　渡邉　拓真

シリーズ 薬薬連携

「うすき石仏ねっと」の活用について ～薬局の立場から～

萬里薬局　神田　秀一郎

医療・介護連携ネットワークシステムである「うすき石仏ねっと」（以下、石仏ねっと）の薬局における活用法について、今回は「薬薬連携」に焦点を絞って紹介します。

1）病院から薬局への情報

病院薬剤師が石仏ねっとの「サマリ（服薬指導）」の項目に入院中（退院時）の情報を入力しています（図１）。「経過・問題点・今後の方針など」「入院前処方内容」「退院後処方内容」「服薬状況」「アレルギーの有無」「副作用の有無」「理解度」「指導内容」「退院後の薬についての注意点」の各項目を参照することで、退院後初めて薬局に処方箋を持ってきた患者へ、薬の変更等で混乱させることなく、シームレスな服薬指導ができます。

図１　退院時服薬指導画面

2）薬局から病院への情報

かかりつけ薬局の薬剤師が石仏ねっとの「医薬連携（薬歴表示）」の項目に「服薬管理者」「調剤方法」「家族形態」「服薬管理方法」の情報を入力しています（図２）。一包化に日付を入れているか？酸化マグネシウムはPTPのままか？おくすりカレンダーを利用しているか？などの情報を記入することで、入院時に病院薬剤師が各情報を参照し活用できていると思われます。

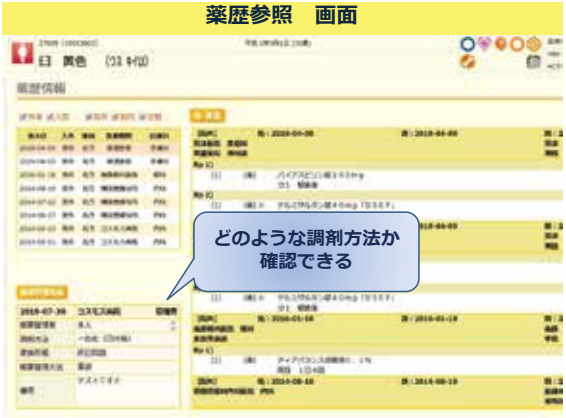


図２　薬歴参照画面

3）石仏ねっとのメール活用

特定の薬局薬剤師、病院薬剤師に情報を伝える手段としては、石仏ねっとのメールを活用しています。石仏ねっとは閉域通信網であり、外部への情報漏洩がないため、患者個人の情報のやりとりが行えます。

石仏ねっとを通じ、薬局薬剤師は入院中の経過等を知ることができ、病院薬剤師は自宅での服薬状況等を知ることができます。今後も石仏ねっとの薬薬連携情報を活用し、患者支援に役立てたいと思います。

大分市薬剤師会

「節薬バッグのリニューアル」について

薬局委員会　野中　麻里

大分市薬剤師会では、現在進行形で節薬バッグのリニューアルに取り組んでいます。今回はその概要と進捗状況を報告させて頂きます。

大分市薬剤師会では、平成25年より九州大学薬学研究院の島添隆雄先生と協力して残薬調査を実施しています。例年10月から翌年２月までの５か月間を強化月間として、会員薬局から処方せん発行医療機関病床数、残薬調整で算定した調剤報酬項目、保険負担割合、残薬調整内容などの残薬確認に伴う処方調整データを島添先生の研究室宛にFAXで送信します。大分市薬剤師会での残薬調査は、今年度で11回目となります。データの収集に伴う会員の負担が大きくなりすぎないように、データ収集方法も見直しながら継続しています。会員からのデータは島添先生に集計分析して頂いています。集計分析後のデータは、島添先生が協力している他県の残薬調査データと併せて論文化され、診療報酬改定に繋げていくことを目的としています。途中経過については、大分市薬剤師会が毎年開催している会員向けの情報伝達会、大分市薬剤師会会報誌「かわら版」や島添先生を講師に迎えた研修会などで、適宜会員の皆様に報告しています。

また、大分市薬剤師会では「市民のために会員のために」という我々の想いを形にすべく、今年度「大分市薬剤師会５カ年行動計画with SDGs」を策定しました。現在、薬局薬剤師を取り巻く環境は変革期にあります。大分市薬剤師会として何をすべきかと考えた時に、①薬局間連携の促進、②地域内連携の促進、③市民への情報発信、④有事への対応、⑤会営薬局の機能強化、という５つの視点から、「薬局薬剤師の**見せる化**」を図ることが、市民や会員へのサービスや地域医療の質の向上につながると考え、この計画のテーマとしています。通常「見える化」という言葉が使われると思いますが、島添先生が寄稿された「節薬バッグから薬剤師機能を見せる化する」から借用して、あえてここでは「**見せる化**」と表現しています。節薬バッグのリニューアルは、視点③市民への情報発信の一環として取り組んでいる事業です。節薬バッグのリニューアルは、単にバッグという物の配布で終わるのではなく、残薬調整に伴う医療費の抑制や適切な薬物療法に薬局や薬剤師が寄与しているという「薬局薬剤師の見せる化」を市民へPRすることも兼ねています。バッグの大きさ、素材、色、デザイン、ネーミング（愛称）など、試行錯誤しながら選定しています。今回のリニューアルにあたり、節薬バッグに印刷するデザインは県内の障がい者アーティスト（株式会社 naNka）へ依頼することとし、愛称

は会員および関係者に公募し、共に先頃決定しました。愛称については、会員の皆様から多くの応募を頂きました。選定の結果、最優秀賞はあき調剤薬局の藤原拓司氏の応募作品「お薬（やく）たちバッグ」に決定しました。この愛称には、「主人公は薬たち、残薬持参に役立つバッグ」という２つの意味が込められています。新しい節薬バッグは、令和６年１月末の完成を予定しています。市民の方には単なる物を入れるバッグではなく、残薬を減らすといった明確な目的を持ったバッグであると認識し、活用して欲しいと考えています。その為にも、配布する際に一工夫必要だと考えています。来年の配布開始までに、今回のリニューアルに対する我々の想いがしっかりと伝わるような方法を検討します。また、会員の皆様には今回の節薬バッグのリニューアルの目的や実際の活用法とあわせて、残薬調査についても今まで以上に周知を進めていく予定です。来年度以降は、この「お薬たちバッグ」が大分市薬剤師会会員薬局と大分市民をつなぐツールとして活躍していることと思います。そのための準備をしっかりと進めていきたいと考えています。

お薬たちバッグ

国東市薬剤師会

国東の魅力と国東市薬剤師会の活動

会長　児玉　慎一

今年度より、国東市薬剤師会会長になりました児玉慎一です。会長としては未熟ですが、会員の皆様と協力しながら地域の為に頑張っています。国東市は自然豊かな人口26,000人ほどの小さな町です。最近では世界農業遺産に登録されたり、吉弘楽がユネスコ無形文化遺産に登録されたり魅力あふれる所です。また、大分空港の「宇宙港」構想計画を打ち出すなど、新しいことにも積極的に挑戦している町でもあります。しかしながら、大分県の中でも高齢化率も高く過疎化も進んでいます。高齢者夫婦のみの家庭や独居の家庭なども多くみられるようになりました。このような所では、地域連携が特に重要となります。国東市薬剤師会では、行政との連携や医療連携に力を入れ活動をしています。

◎１年間の大きな活動として４つあげることが出来ます。

（１）国東市民病院との勉強会

僻地中核病院である国東市民病院と「仏の里薬薬会」を立ち上げ、２～３ヶ月に１回合同で勉強会を行っています。これは、会員の知識の向上だけでなく病院と地域薬局との連携を深めることも目的としています。

（２）行政との連携強化

国東市役所高齢者支援課からの依頼を受け、介護認定審査委員として薬剤師を２名派遣しています。また、様々な職種の方と意見交換を行う「国東市国民健康保険運営協議会」にも積極的に参加し、一緒に国東市の問題を解決していくなど行政との連携も大切にしています。

（３）国東医師会、歯科医師会との勉強会

国東医師会、歯科医師会、薬剤師会で「くにさき３師会」を立ち上げ、年に１～２回勉強会を行っています。今年は９月21日（木）に勉強会を行いました。

・大分県立病院腎臓内科部長　福永直也先生による「CKD診療における降圧管理の重要性について」の講演を聞きました。貴重な勉強の機会をいただき個々の知識の向上に繋がりました。また、「くにさき３師会」は医師や歯科医師、薬剤師の意見交換の場にもなっています。

（４）地域高齢者サロンに講師派遣

東部保健所国東保健部からの、「お薬講座」の講師依頼に薬剤師を派遣しました。国東市は高齢者が多く、人とのコミュニケーションを取る機会も少なくなりがちです。このような高齢者をなくす為に、それぞれの地域で高齢者サロンを開き高齢者同士や地域の方々との交流の場を作っています。そこでは、体操をしたり、講演を聞いたり楽しい時間を作っています。薬剤師会もそのお手伝いをしています。高齢者は、お薬を飲んでいることも多い為、正しく飲めているか、疑問点はないか質問出来る良い機会にもなっています。

国東市薬剤師会の大きな活動としては、以上のようなことを会員全員で協力しながら行っています。また、毎年の「薬と健康の週間」では、たくさんの方々の協力をいただき市民の方々が正しく薬が服用出来るように様々な活動を通して貢献することが出来ました。

私の会長としての任期は２年ですが、今までにしてきたことだけでなくこれからの地域のニーズに合わせて出来ることがあれば、会員の皆様と考え活動していきたいと考えています。そして、国東市薬剤師会が地域の方々の安心した暮らしの一助を担うことが出来るように頑張っていきます。

豊後大野市薬剤師会

ダメ。ゼッタイ。運動

やの薬局　堀田　克行

豊後大野市薬剤師会では７月３日（月）に『ダメ。ゼッタイ。』運動の街頭活動をしました。

場所はJR三重町駅前です。あいにくの雨の中でしたが朝７時から８時までの１時間、通勤・通学の方に声掛けとビラ配布をしました。

豊肥保健所の所長・薬剤師の麻生先生を始め職員さん、豊後大野市ライオンズクラブの方々、三重総合高校ボランティアサークルの生徒さんと一緒に豊後大野市薬剤師会からは８名参加でした。

「６月26日は国連麻薬乱用撲滅デーです」

「薬物乱用防止活動です」

「薬物乱用のない社会環境をつくりましょう」

この３つの言葉が声掛けした言葉です。

若手薬剤師部会

第13回職人フェスティバル 参加報告

オリーブ薬局　河北　竜太郎
（中津薬剤師会）

日　時：令和５年10月１日（日）
会　場：中津市日の出町商店街、
新博多町商店街、JR中津駅

令和５年10月１日（日）に中津市日の出町商店街、新博多町商店街、JR中津駅で開催された職人フェスティバルについて報告いたします。

本イベントは中津市内の様々な企業・職種の方々がブースを出展し、こどもたちが職業体験を行うことが出来るものです。出店やステージイベントもあり晴天も相まって大変賑わうイベントとなりました。

今回我々薬剤師会はモバイルファーマシー（以下MP）を会場内に乗り入れMPの内外の公開、災害時の薬剤師やMPの役割を記した資料の展示、お薬手帳の重要性の宣伝、危険ドラッグ・薬物乱用防止の啓蒙を行いました。また、こどもを中心にMP内の分包機にて調剤体験を行ってもらいました。

私自身、各学会等でMPの活躍を耳にしたり実際のMPを見かけたりはしていたのですが、中に入って設備をしっかり見たり実際に設備を動かしてみることは今まで経験がありませんでした。しかし、今年度からご縁があり大分県の災害対策委員会に参加させていただいておりこれを機にMPを体験しておきたい、となったのが参加の理由です。

さてイベントの成果ですが、かなり好評であったと私は感じました。受付を開始すると間を置かず数組の家族・グループが並んでくれました。MP内では参加者にMPの役割や薬を一包化する意味を説明し、薬に見立てたお菓子を分包機で一包してもらったのですが、１組につき10～15分かかるなか常に２～４組が外で並んでくださり、結果として撤収する16時まで体験希望者が途切れることはありませんでした。参加者は幼稚園～小学校中学年くらいの子が多かったと思います。こどもが調剤を行っている姿を写真や動画に収める保護者の姿も印象的でした。周りの職業体験を見てみても我が子の制服姿やヘルメットなどを着けている姿を写真に収めている保護者が多数見られましたのでカタチから入るのもありだと思いました。もし同様のイベントに参加する際はXSサイズの白衣があればより好評かもしれないなと思いました。

今回の職人フェスティバルを通じて少しでも近隣住民の皆様にMPや薬剤師の活動を理解していただけたり、未来あふれるこどもたちに我々薬剤師のことが伝わっていることを期待しています。

検査センターだより

竹田市／岡城址

Contents

2023年11月

2023年度　連絡調整会議の開催について

検査センター　職員の紹介

TEL 097-544-4400　FAX 097-546-8190
URL http://www.oitakensa.jp/
E-mail　soumu@oitakensa.jp

一般公開版 | 大分県薬会報　通号 209 | 2023 年 11 月 | Vol.57-5

2023年度　連絡調整会議の開催について

当検査センターでは、市町村の水道及び飲用井戸担当課、組合簡易水道及び専用水道、市町村教育委員会の各担当者を対象にそれぞれ毎年、連絡調整会議を開催しています。

新型コロナ感染症の流行を境に一昨年度より県薬会場と関係機関とをオンラインで結ぶWeb会議を開催しています。

まず、９月29日（金）に市町村教育委員会の担当者を対象に学校環境衛生検査に係る会議を開催し、大分県教育庁体育保健課 学校保健・食育班の黒木主査から「学校保健と学校環境衛生について」ご講演いただきました。学校環境衛生基準の法的根拠の確認、学校環境衛生活動状況の推移、学校環境衛生基準に加えて、５類感染症移行後の新型コロナウイルス感染症対策など様々な視点から説明していただきました。

当検査センターからの議事として、「空気環境測定の結果について」「水質検査試料採取及び運搬方法について」「2024年度「学校環境衛生基準」検査項目及び手数料について」の３題について説明させていただきました。

大分県教育庁体育保健課 学校保健・食育班　黒木主査の講演
教育委員会担当者は100％がWeb出席でした

次に、10月６日（金）は、市町村の水道及び飲用井戸担当課関係者、組合簡易水道及び専用水道関係者を対象に水道水質検査等に係る会議を開催し、厚生労働省 健康・生活衛生局 水道課 水道水質管理室の関塚基準係長から「水道水質管理について」ご講演いただきました。日本の水道は、世界最高水準の水道サービスを提供しており、それを実現しているのは、水道事業体の浄水技術や検査体制の充実、継続的な監視等によるものです。当検査センターも、水道水質検査の登録検査機関として県内の水道事業を支えています。登録検査機関で実施する水質検査は、水道の安全を確認する重要なものであることから、信頼性の高い検査の実施が確保できるよう、適切な水質検査の徹底が求められています。

改めて、安全安心な水道を提供する水道法を学ぶ良い機会となりました。

当検査センターからの議事として、「水質検査資料採取及び運搬手順について」「2024年度　水質検査計画策定について」説明させていただきました。

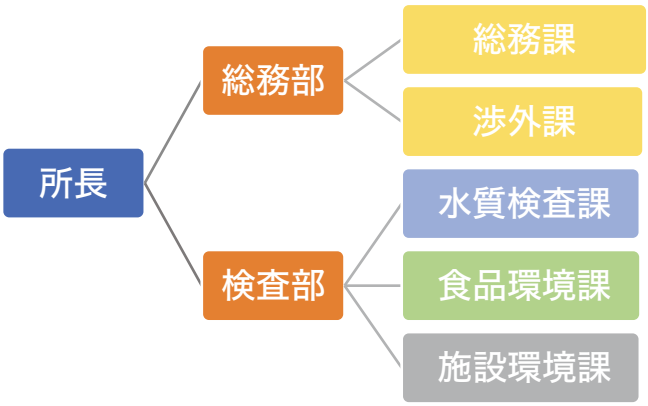
両日とも一昨年度よりWeb開催としておりますが、移動時間がなくて済むなど担当者の負担を少なくすることができ好評となっています。

県薬会場での会議の様子

当検査センターでは、このような機会を通して各担当者様のご理解を深めていただくことで、質の高いサービスが提供できるよう努めてまいります。

検査センター　職員の紹介

当検査センター組織図



２回目の職員紹介は水質検査課と施設環境課です。

水質検査課

左から安部 主任、中西 課長補佐、小柳 課長、若月、村上 主任

左から山口、宮辺 主任、長野 係長、大城 主任

左から川野、春藤、赤峰、三浦

水質検査課の主な業務内容は、飲料水検査、プール水検査やこれらの検査に関する採取業務、専用水道等の水道管理、医薬品検査等です。
暮らしの中で必要不可欠な水道水の安全を守るために、毎日検査を行っています。

施設環境課

写真左より
都留 、中渡瀬 課長補佐、炭本 課長、髙井 係長

写真左より
山根 課長補佐、三股 係長、二宮 主任、橋本

施設環境課の主な業務内容は、簡易専用水道等貯水槽の検査、学校環境衛生検査業務、室内環境（シックハウス）の検査、作業環境測定、石綿（アスベスト）の分析、地下タンクの漏洩調査です。
外勤が主な部署になりますが、みんな元気に頑張っています！

O・P・A 薬局だより

Contents

2023 年 11 月

O・P・A薬局なう

〒870-0855　大分県大分市豊饒二丁目10番9号
TEL 097-544-0234　FAX 097-544-0245
URL http://www.oitakenyaku.or.jp/opa/
E-mail opa@oitakenyaku.or.jp

一般公開版 | 大分県薬会報　通号 209 | 2023 年 11 月 | Vol.57-5

O・P・A薬局なう

コロナの規制が緩和されもうすぐ半年近くが過ぎますが、コロナに加えインフルエンザなどの感染症が再び増加し、会員の皆様におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

私共、O・P・A薬局はがん診療連携拠点病院である大分県立病院の処方を主に扱っているため、日々様々な診療科のがん患者さんの処方せんを目にします。

６月より大分県立病院が連携充実加算の算定を開始されることになり当薬局もその依頼を受けることになりました。皆様ご存じのこととは思いますが手順としては

1．外来化学療法を受け、連携について説明をうけた患者さんがレジメン内容など記載された情報提供書を処方せんと共に持ってくる。
2．患者さんに１週間後くらいに内服状況や副作用の有無などを電話で伺ってよいかの確認を行い、フォローを行う。
3．聞き取りの結果を病院側にFAXにて情報提供する。

FAX　大分県立病院　薬剤部あて　097-546-7139

報告日　令和　年　月　日（　）

服薬情報提供書（トレーシングレポート）

【保険薬局】
名　称
所在地
TEL
FAX
担当薬剤師　印

大分県立病院
科　先生
患者ID
患者氏名
生年月日
性　別　男性・女性

この情報を伝えることへの同意　□ 得た
□患者本人から　□家族から　□その他（　）

化学療法に関連し、必要な事項をご報告しますので、ご高配くださいますよう、お願い申し上げます。

情報提供（所見など）

必要事項

大分県立病院　薬剤部　辰巳様　報告薬剤師氏名　印

□報告内容を電子カルテに取り込みました。
電子カルテ取込薬剤師氏名　印

□この内容は疑義照会でお願いします。
理由（　）

【注意】この FAX による情報提供は疑義照会ではありません。

大分県立病院薬剤部Webサイトより

今までは、どんな治療をしているのか、患者さんによってはがんの種類もわからないことが多かったのですが情報提供書により、より具体的に説明できるようになりました。

しかし、「もうずっと一緒だから大丈夫」とやんわり断られたり、電話がかかってくるのがいやだと断られたケースもありました。

現在では計15名の患者さんに投薬した薬剤師がフォローをしています。

取り扱う抗がん剤・レジメンの種類が日々増えていく中、勉強会などを開き、レベルアップを目指し、少しでもがん治療に頑張っておられる患者さんの支えになれるように職員みんなで取り組んでいるところです。

（高橋）